

2017年7月2日(日)朝10:10

主の聖霊降臨節第5、オリーブ会等

7月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：7つの金の鉢；第1の金の鉢:腫物

聖書:ヨハネの黙示録 16章2節

＜口語訳＞

新約聖書401頁

ヨハネの黙示録 16章2節

＜新共同訳＞

新約聖書470頁

ヨハネの黙示録 16章2節

＜新改訳第3版＞

新約聖書493頁

ヨハネの黙示録16章2節

＜塚本訳＞

新約聖書809頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの満ちた金の鉢の用意と神の聖所からの命令のことばです。

◇ヨハネの黙示録16章2節は、神の怒りの満ちた第1の金の鉢の注ぎと腫物による獣礼拝者への裁きです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第16章2節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録16章2節；ヨハネは、**第1の金の鉢の注ぎと腫物による獣礼拝者の裁き施行**を見ました。

◇16:2；塚本訳◆**第一金の鉢——腫物**

「2 第一の天使が行ってその鉢を地に注いだ。すると悪い痛い腫物が、獣の印を有つ者とその像を拝む人々(の身)に生きた」と、ヨハネは、**獣礼拝者を腫物によって神が裁かれる幻**を見たのです。

◇2節；「**第一の天使が行ってその鉢を地に注いだ**」結果、「**悪い痛い腫物が、獣の印を有つ者とその像を拝む人々(の身)に生(で)きた**」のです。

⇒「**腫物**」は、**出エジプト記9:10**で、モーセがエジプト王パロに対する**神の裁き**として、**獣と人**についてのしるしでした。

- ⇒新改訳で「**腫物**」と訳されていますが、旧約聖書のギリシャ語訳(LXX)でも、同じ言語が使われています。
- ⇒**ヨハネ**は、きっと、モーセによる**神の裁き**を連想しただろうと、多くの人々は理解しております。**神**が、偶像礼拝者パロを支配されたように、「**獣と獣礼拝者**」を支配しておられるしるしなのです。
- ⇒**神に反逆する者**は、「**腫物**」のような苦痛を通して、**神の裁き**を経験することになるとの**神の最終の警告**です。
- ⇒「**神の封印**」が解かれたり、「**神の裁きの警告のラッパ**」が吹かれた時の**神の裁き**より、今回の**神の裁き**が厳しく、**神の最終的裁き**と、理解されているのです。
- ⇒**黙示録8:7の第1のラッパの裁き**では、「**第一の御使いがラッパを吹いた。すると血の混じった火が起こって、地上に降った。そして地の三分の一が焼かれ、樹の三分の一が焼かれ、(その三分の一の地にあった)青草が悉く焼かれ(てしまっ)た**」とあり、**神の裁きの猶予**が見られたのでした。

◇2節；「腫物」が、神の恵みの目線で見ると、「神礼拝者」には、及んでいないことです。

⇒黙示録14:10では、「その人もまた神の怒りの酒杯に注がれた雑なき神の憤怒の葡萄酒を飲み、且つ聖なる天使の前と仔羊の前とにおいて、(永遠に)火と硫黄で苦しめられるであろう」と、「鉢」が、「神の怒り」の「酒杯」と置き換えられています。その苦痛は、尋常ではないものであることを知らされています。

⇒と同時に、黙示録5:8～10では、「8 彼がその巻き物を受け取った時、四つの活物と二十四人の長老とは、各々豎琴と香の一杯入っている金の鉢とを(手に)持って——この香は聖徒の祈りである——仔羊の前に平伏し、9 新しい(讚美の)歌をうとうて言う——貴方は巻き物を受け取り、その封印を開くに相応いたもう。貴方は屠られ給うて、その血(の値)によって凡ての種族と国語と民と国民と(の価)から人を神のために買い、10 これをわれらの神のために王国(の民となし、)また祭司となし給うたから。彼らは地上に王となるであろう」と、「金の鉢」に香が盛られました。

- ⇒**神の裁きのラツパ**や**鉢**に先立つ**黙示録4～5章の神の祝福**を心に留める必要があります。
- ⇒「**金の鉢**」には、本来、大祭司が年に1度、民の罪の赦しを求めて、至聖所に入り、注ぎの犠牲の動物の血を契約の箱の上、贖罪所に注ぐために持ち運ぶ入れ物の器だったのですが、**黙示録**では、神への祈りを現わす香料が盛られていたのです。
- ⇒既に、主イエス・キリスト様が罪の身代わりの十字架の上で、肉を裂き、血を流して下さったという**神の恵み**が表現されています。
- ⇒確かに教会を現わしていると言われた太陽を着、月を踏み、12の星の冠を頭にしたひとりの女性を**龍(悪魔・サタン)**は追いかけて、迫害し、女性・教会は、荒野・試練の生活の場に行くという事態を回避できませんが、教会は、この危機の時代にあって、手には、犠牲の血ではなく、香を盛った「**金の鉢**」を持っていたいと願います。
- ⇒マルチン・ルターは、洗礼と福音と信仰によって、全てのキリスト者は霊的な祭司・司祭であると言いました(著作選集178頁)。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの満ちた金の鉢の用意と神の聖所からの命令のことばです。

◇ヨハネの黙示録16章2節は、**神の怒りの満ちた第1の金の鉢の注ぎと腫物による獣礼拝者への裁き**です。

⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」ののですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。



- ⇒**神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。**
- ⇒**決して、神の怒りに先立ち、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。**
- ⇒**多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに随いて行く」と天から声と神の内住の御霊の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。**
- ⇒**「穀物の刈り取り」、「主にある死人の勝利」は、「雲の上に人の子の再臨」のより実現します。**
- ⇒**その実現の時まで、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」(黙示録13:10、14:12)です。**
- ⇒**神のご計画は、時が来れば、事は行われる(237頁)のです。**

- ⇒14～16節では、**人の子なる神の御子**が、**死人の勝利**の刈り取りをしたのに対し、17～20節では、**第5の天使、第6の天使**による**葡萄の刈り集め**は、「**神の憤怒の大きな酒槽**(さかぶね)」に投げ入れるという結末が語る通り、**神の怒りの復讐**が啓示されています。
- ⇒茲でも、**神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」**です。私たちに**神**が期待されるのは、①**神礼拝に忠実**であり、②**神が創造した全ての人間**が、**神のみことばである聖書**に**聴く機会**が与えられるように**執成し祈る**ことです。
- ⇒**黙示録15:1**の**天の大きな、驚くべき徴**は、**神に反逆する者**への「**神による最後の災厄・神の憤怒**」です。それは、想像を絶する時間の経過を必要とする通告ですが、**神の預言**は必ず成就します。
- ⇒**神の愛の律法・愛の福音**に聴き従い、**神礼拝**を通し、日々の**聖書のみことば**を静聴し、祈り、服従することを通して、「**神と隣人**」を愛し、「**最後の災厄**」から逃れる道を共に生きる**神の恵みの福音の道**をあかして生きたい！

◇15章2～4節では、**殉教者たちが、神の御座の前で、モーセが紅海渡渉を神の恵みとして神を讃美したように、申命記32章3～4節の聖句を用いて、神が罪から決別された存在であり、神が語られたことばを確実に実行されることを神讃美に託しているのです。**

⇒これから起きる大患難も、殉教者にとっては、**神が語られたことばに忠実であることを示される出来事として、神讃美の中身に含めているのです。**

⇒**神の裁き自体**を讃美しているのではなく、**神の真実**を告白しているのです。

⇒今日の教会に求められますのは、**神の真実**を告白する方法が、**神讃美**であるとともに、**神への執成しの祈り、神の赦しの恵み**が凡ての人々に与えられるようにと願うことなのです。

⇒「**神への祈り**」は、一般の人々からは空虚な働きに見えるかも知れませんが、「**主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！**」なのです。

⇒どんな偉大な人間でも、**神の真実のわざ**を超えることはできないのです。

- ⇒ **黙示録15:5～16:1**では、「**天にある証の天幕の聖所**」が、「**開かれ**」、「**神の怒りの金の鉢**」が、「**7人の天使たちの手に**」渡されるのと、「**天にある証の天幕の聖所からの命令**」の声をヨハネは聴いたのです。
- ⇒ 今日の私たちは、「**神の怒り**」を「**金の鉢**」に盛らず、「**神の愛と赦しの福音**」を盛りたいと願います。
- ⇒ **黙示録16:2**では、「**神の怒りの酒杯・金の鉢**」が、「**獣と獣礼拝者**」に注がれ、「**神の酷い悪性腫物**」で打たれたことが、幻で示されていました。
- ⇒ 「**神礼拝者**」は、これを警告として聴きつつも、**黙示録5:8**で示されていたように、**神に反逆を繰り返す危機の時代**であるからこそ、「**金の鉢**」には、**恵みの神への祈りのしるし**である**香**を盛って、**神の至聖所**に向かう「**神の祭司**」の任務を果たさせて頂きたいと願います。